

5年 図画工作科学習指導案

授業者 渡邊 翔太

1. 題材名 おして つぶして (A表現(1)ア造形遊び)

2. 題材の目標

○アクリル板で絵の具を押しつぶし、力の入れ方や押し付け方によって変わる表現を味わいながら、意識的な偶発性や対称性などのデカルコマニーの特徴を理解し、即興的・創発的に表現する。

〔知識及び技能〕

○即興的にアクリル板で絵の具を押しつぶしたことで生まれる形や色の混ざり具合などといった偶発性をもつデカルコマニーの特徴を生かし、創発的な表現をしていく。

〔思考力、判断力、表現力等〕

○アクリル板で絵の具を押しつぶしたことで生まれる形や色の混ざり具合に表現の魅力を感じ、即興的・創発的に作り出す喜びを味わいながら表現を楽しむ。

〔学びに向かう力、人間性等〕

3. 子どもと題材

新年度になり、対面した本学級の子どもは、「図工が好き」や「僕セロハンテープで工作するんです」などと図画工作科の授業に期待感を表出していた。日頃より、紙を使って病院ごっこ遊びの注射器を制作する子、セロハンテープを使って人形を制作する子、黒板に絵を描く子など、図画工作科につながる営みが日常の中にあふれている。

題材「一本の線から……」では、一人ひとりが四角形の枠の中に一筆書きで数本の線を引いた。そしてそれによって形づくられた中を順番に色塗りしていく表現活動を行った。それぞれが仲間の描いたものに塗り手のおもいを重ねて色付けていく中で、「綺麗だ！みんなそれぞれで塗っているからみんな違って綺麗」や「芸術的！」と感動をあらわにしたり、「ここがトナカイみたいになってる」と意味付けをしたりする姿がみられた。また、仲間で塗ったものをじっくり鑑賞しながら、「これに合う色は……」と色合いを吟味したり、「同じ色がいっぱいあるから色を変えてみた」と全体の色の調和を考えたりするなど、造形的な視点を働かせながらおもいおもいに表現を楽しんでいた。個人で行った表現であったが、出来上がったものを見て、「みんなで繋げて、だれかにつくったら面白いかも」と表現を創発していく姿もあった。無作為に描かれた線が生み出す偶発的な形の面白さ、それを塗ることで生まれる色の調和や全体の色のバランスを味わうことは子どもの創作意欲を高めていくものになっていると感じた。

本題材では、デカルコマニーの表現技法を活かした造形遊びを行う。絵の具（水彩）、洗濯のり、透明アクリル板を使用したデカルコマニーである。デカルコマニーとは、紙と紙などの間に絵の具を挟み込み、その上から圧力をかけることで、絵の具が押しつぶされて広がり、作者の意図しない偶発的な形態を得ることができる技法で、シュルレアリスムという近代美術において意識的な偶発性を取り入れる手法として多用されてきた経緯がある。紙を二つ折りにして、圧力をかけること、そこには線対称な模様ができ、そのできた表現に想像力を膨らませることで、意味付けや価値付けが行われるため、近年、保育現場の「絵の具遊び」としても実践されることが多い。そのため、経験したことのある子どもも多い技法ではないだろうか。昨年度、転写という観点で似ている色泡を紙に転写する実践を図画工作科部で行った。その際に、転写されたものを楽しむのもそうだが、色泡がどのように転写されているのか、その過程を気にする子どもの姿もあった。転写対象が紙だと、その写し取られる様子が見られないため、その過程は子どもにとって、興味を引き立てるものなのだろう。また、作家の中には、デカルコマニーの技法に着想を得て独自技法（ムニユティング）を発案し、作品を制作している人もいる。

本題材では、“意識的な偶発性”を味わうことを重視している。デカルコマニーの技法を知り、その過

程を知ること、押し具合を調整したり、配置した絵の具のつぶし方を工夫したりすることによって表現が変わることに気付くだろう。偶発的なものではあるが、押し具合や絵の具の配置という“意識されたもの”がそこに影響を及ぼすことができるということを、何度も表現していく過程で感じるだろう。思ったものにならないが、そこから生まれた表現に対して子どもは、造形的な視点を働かせながら意味付けや価値付けをしていく。また、透明アクリル板を使用しているため、洗えばその変化の様子を何度も試すこともできることから、よりデカルコマニーという技法の面白さを感じることができるだろう。

さらに、一度押しつぶした際に使用した透明アクリル板を再度転写することで、一度目とは異なった表現になることもあり、そこでも再度意味付けや価値付けができる可能性を秘めている。絵の具だけでなく、洗濯のりを混ぜることで、絵の具の広がり方が変化したり、洗濯のりを媒介として色が混ざるようになったりするなど表現も変わるため、子どもの表現への意味付けや価値付けが何度も繰り返されていく。その過程で、子どもは造形的な視点を働かせながら、「こうしてみよう」「こうしたら面白そうだな」と情意や思考をめぐらせていき、造形的な視点を磨いていくだろう。偶発的な表現を味わうことで、おもいもよらない表現やその面白さや美しさなどの価値に目が向くようになり、子どもの見る世界が広がることにつながるだろう。そのようにして世界を広げることで、身の回りのものに「綺麗さ」や「価値」を見出していくだろう。そして、その「学び」は人生を豊かにすることに寄与するだろう。

4. 本題材に願う『その子らしく学ぶ』

第①時には、紙と紙で挟むデカルコマニーに出合い、その技法について知る。水彩絵の具（赤・青・黄・黒・白）とA5サイズの画用紙を使用して、紙を半分に折って紙と紙を合わせたり、2枚の紙を重ねるようにして合わせたりして生まれた表現を十分に楽しむ。紙を折って絵の具を押しつぶす方法を試す子は、折り方によって線対称の位置が変わるため、表現も変化することに気付くだろう。また、2枚の紙を合わせた子は、紙の押しつぶし方によって表現が変化することや、転写されたものは表現が微妙に異なることに気付くこともあるかもしれない。デカルコマニーの技法から生まれる対照的な表現の面白さを味わったり、偶発的な表現であるがゆえに生まれる期待感を抱きながら表現を楽しんだりする中で、造形的な視点を働かせる。その過程で、「カラフルな蝶みたいになった」や「ドラゴンみたいになった」などと意味付けしたり、「色がぐにゃって混ざる途中みたいでなんかいい感じ」や「明るい色の混ざりかけみたいで綺麗になった」と価値付けしたりしていきながら造形的な視点を磨くだろう。

第②時には、透明アクリル板を使用した表現に出合う。「デカルコマニー×透明アクリル板」という技法に出合うと、「これでつぶれている様子見られるじゃん！」「早くやりたい！」「早くやりたい！」などと、生まれる表現に興味津々になるだろう。実際に行うと、「動きが面白い！」「グニャって広がっていくのがいい！」など押しつぶされる現象に価値付けをしていくだろう。そして押し方を変えたり、絵の具の置く位置を変えたりしながら、意図的な表現をしようと試みるだろう。意図的に表現をするものの、予想とは異なる模様や色の組み合わせになることもある。しかし、造形的な視点を働かせることで、「動物みたいになったよ」「虹みたいになった」「ハートがきれい」と意味付けしたり、「なんかいい感じ」「ぐにゃって広がっているのが好き」「ぐっと広がっていくのが面白い」と価値付けしたりしながら表現を楽しむ。

第③時には、洗濯のりも使用した表現に出合う。洗濯のりを絵の具と同様に使用することで、押した際の絵の具の動きに変化が加わり、これまで目にしてきた表現とは少し異なる楽しさを感じるだろう。洗濯のりをどこにのせるか、また押し加減をどのように調整するかと思考を巡らせながら、意図をもって表現活動をしていくだろう。また、洗濯のりを組み合わせた表現と水彩絵の具のみの表現とを比較する中で、自分のいいと感じる表現にはどの材を使うといいのかと吟味することもあるだろう。そう言った過程で、仲間の表現を目にして、「あれいいな」「どうやって作ったのかな」などと鑑賞をしていくことで、自身の表現の幅をさらに広げていくのではないだろうか。いろいろ試していく中で、「同じものではないけど、一人ひとりが違うところがいい」と個人の表現のよさを認めたり、「自分の好きなのは絵の具と少しの洗濯のりを使ってできるやつだな」と表現の価値観を再認識したりするだろう。さらに、「大きなアクリル板を使って何人かでやっても面白いかも」と創発的な表現を提案したりすることも出

てくるのではないだろうか。また、他の色も使用したいと考え、「自分の絵の具を持ってきてもいい？」と相談する子も出てくると考えられる。それらのおもいを共有し、次時の活動の見通しをもって終える。

第④時は、それぞれが準備した水彩絵の具と洗濯のり、そして様々なサイズのアクリル板と画用紙に出合う。これまでの技法をもって、「A4のサイズでやってみよう」「大きなアクリル板を使ってつぶしてみようぜ」などとアクリル板のサイズを様々試し、表現を楽しむだろう。仲間と一緒に表現しようとする、試したいつぶし方や押し方がそれぞれで異なるため、意図的な表現はより難しくなる。しかし、偶発的な面白さを見出してきた子ならば、そこで生まれるその時にしか生まれない唯一無二の表現によさを見出すことができるのではないだろうか。さらに、この時間には、表現を壁や窓などに貼ったり、ぶら下げたりすることで鑑賞がより活発になるだろう。その中で、仲間と互いの表現を組み合わせる「かわいい柱」などとテーマを決めて飾ったり、またはおもいおもいに貼られた場によさを見出したりするだろう。

第⑤時は、引き続きデカルコマニーの表現を追究したり、飾ったりすることを楽しみ、本題材を終える。

本題材を通して、意図的な偶発性から生まれる表現に出合い、造形的な視点を磨いていくだけでなく、仲間との表現の場を生み出したり、表現の調和を見出したりしていくことで、自己表現もしながら仲間の表現も受け入れていく姿勢が育まれていくことを願っている。

5. 題材構想（全時⑤間扱い／本時は第④時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ

最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① ＜デカルコマニーって知ってる？＞

- ・紙と紙で挟むやつだ ・習い事でやったことある
- ・なんか蝶みたいになるやつだね？
- ・先生がつくったやつ蝶ではないでしょう

＜自分でやってみよう＞

〔意味付けを行う〕

- ・カラフルな蝶ができた
- ・俺のは蛾だな
- ・木みたいなのがくれた

〔価値付けを行う〕

- ・紙を押し付けると絵の具がぐにやっ
- て広がるのが面白いし、いい感じ
- ・色が渦みたいに混ざるのがきれい

〔デカルコマニーの技法の特徴に気付く〕

- ・半分に折っても、紙を2枚重ねても出来上がるのは写したみたいに同じやつになるね
- ・同じ色の配置にしても似たやつはできるけど同じものはできないな

〔やりたいことを広げていく〕

- ・大きな紙でやりたいな
- ・色をつくってもいいの？
- ・これつぶしている時ってどうなっているのかな

② ＜透明な板（アクリル板）を用意したよ＞

- ・これでつぶしたら、押ししているときどうなっているか分かりそう！
- ・早くやりたい

＜やってみよう！＞

〔意味付けを行う〕

- ・動物みたいになった
- ・お化けみたいなのができた
- ・3色の虹ができたよ
- ・ハートみたいになった

〔価値付けを行う〕

- ・ぐにやっつぶれていく様子がおもしろい
- ・つぶしていくとぐっと広がっていく動きがきれいだな

第①時

○子どもがデカルコマニーという技法について確認できるように、紙と紙を合わせてつくるデカルコマニーの実演をする。

○子どもが表現技法を十分に味わえるように水彩絵の具（赤・青・黄・黒・白）と白画用紙を一人ひとりに用意する。

○子どもの「こうしたらどうなるかな」というおもいが生まれるように、水彩絵の具を自由にとっていくようにする

○子どもが意味付けや価値付けにつなげられるように表現について「何ができた？」や「何がきれい？」などと問う。

第②時

○前時の気付きや感じたことが共有できるように最初に前時をふり返る共有タイムを設ける。

○子どもが十分に透明アクリル板のデカルコマニーを味わえるようにA5サイズの透明アクリル板を一人一枚用意する。

〔デカルコマニーの技法の特徴に気付く〕

- ・透明で見えるから押し方やつぶす力加減でどうなるのかよく分かるや
- ・デカルコマニーってつぶれるけど色は変わらないんだな
- ・1回やったアクリル板をもう一度新しい紙につけてみるとスタンプみたいになったよ

③ <洗濯のりを用意したよ。使うとどうなるかな？>

- ・穴が開いたような感じになるんじゃないかな
- ・え！？広がったところが細い線みたいになるんだ
- ・自分でもっとやってみたい

<やってみよう！>

〔意味付けを行う〕

- ・なんかパンジーの花の色の広がりみたいになっている
- ・もやっと広がるから赤と黄色の所が炎みたいだね

〔価値付けを行う〕

- ・洗濯のりの部分に絵の具が広がると線のように広がってなんかきれい
- ・なんかもやっとした感じがまた違っていい感じだね

〔デカルコマニーの技法の特徴に気付く〕

- ・洗濯のりを使うと、インクが少し溶けて少しだけ混ざった色ができやすくなるんだね
- ・押したときにアクリル板が少し滑るけど、それでいい感じに表現ができるんだね

④ (本時) <自分もってきた色やサイズ違いの物を使ってみよう>

〔意味付けを行う〕

- ・大きい紙と大きいアクリル板を使って、いろんなところに花が広がった感じができたよ
- ・花火が広がった感じになった
- ・絵の具を置く場を考えると虹になった

〔価値付けを行う〕

- ・絵の具だけの部分と洗濯のりも使った部分が一枚の画用紙にまとまるといい感じになった。
- ・いろんな色を使えるから前よりもカラフルになってきれい

〔仲間と一緒に〕

- ・大きな画用紙に〇〇ちゃんと一緒に適当においてつぶしてみたらなんか面白い感じになったよ
- ・みんなで動物みたいな形をつくらせてみよう

〔意図的にできることを生かして〕

- ・カラフルな木になるように力加減を調整してつくってみたよ
- ・ハートみたいな形になるように押してかわいいやつをつくりたい

⑤ <「おして つぶして」最後の時間 おもいっきり楽しもう>

- ・ここら辺、怪獣ぼく見えるやつ並べてみようぜ！
- ・イメージが近いものをしっかりそろえて並べた方がいいから、置く位置をみんな決めて
- ・足りないからさ、もう少しつくって飾ろうよ。なんか、カラフルなの並べて可愛いやつにしたい！
- ・数が足りないからもう少しつくってみよう！色のつながりも考えてつくらないと
- ・模造紙のやつ並べてみたら、カラフルな道ができるやん！みんなでつくろうぜ！
- ・大きなアクリル板でもっとやりたいからみんなやってみない？

<「おして つぶして」のこれまでを振り返ってみよう>

- ・デカルコマニーのやり方を知って、偶然できるものがいろんなものに見えるのが面白かった。何かを描くんじゃなくて、できたものから想像して見えてくるものをみんなで合わせて飾るとそれぞれが違うけど、統一感というかみんなで作った感じができてよかった
- ・みんなで作った作品を飾ったら、なんか美術館みたいになってよかった。家の人にも来てほしいです
- ・適当につぶしたり、おしたりしても、なんかアートになっておもしろかった

○子どもの意味付けや価値付けが活発になるように「何ができた？」「どこがいい感じ？」と問い返す。

○子どもが意識的な偶発性について感じられるように、自分で操作して表現を変えられることを全体でも共有する。

第③時

○前時の気付きや感じたことが共有できるように最初に前時をふり返る共有タイムを設ける。

○子どもが表現への興味・関心を高めるために洗濯のりを使用した表現がどのようになるのか置き方などを示しつつ、生まれる表現の予想を共有した上で、表現を目にする場を設定する。

○洗濯のりを使用した表現とこれまでの表現の違いについて考えることができるように「何がかわるかな？」と問いかける。

第④時

○前時の気付きや感じたことが共有できるように最初に前時をふり返る共有タイムを設ける。

○子どもが表現に安心して向かえるように、道具の使用について共有する。

第⑤時

○子どもが表現を生み出したことや飾ったことができるように、作業場と飾る場を分けする。

○全体でもふり返ったことを伝える場を設け、仲間の振り返りが「自分はどうかな？」と考える視点となり、再度深くこれまでの自分と向き合っ振り返られるようにかかわる。